

現代労働問題研究会 2004 年度活動計画

現代労働問題研究会第1回総会で採択(2004/4/3)

21世紀にはいり、「戦争の世紀」といわれた前世紀の教訓をいかすどころか、ますます不条理な戦争が引き起こされています。経済の面では市場のグローバル化がすすみ、一部の先進資本主義国に有利なシステムがつくりあげられようとしています。このようななかで、世界の人口の6分の1にあたる10億人以上の人人が貧困ライン以下の生活をしいられ、世界各地で罪もない人人が戦争によって無惨な殺され方をしています。その一方で、世界人口のわずか0.1%にすぎない600万人の人人は、100万ドル(約1億円強)以上の資産をもち、資産をふやし続けています。アメリカ、日本、ヨーロッパなどの帝国主義的支配によって、貧富の格差は世界的な規模でひろがるばかりです。

日本においても、失業率は5%をこえたままで一向に好転の兆しは見えず、逆にリストラ「合理化」や企業倒産、首切り、パートや派遣労働者の増大、不健全な「成果主義」の導入、農業の破壊や零細商工業者の経営不振により、人人の労働と生活はいつそうくしくなり、将来への展望がもてなくなっています。また、有事法制の成立をはじめ戦争の準備となる法律が次々と成立しています。自衛隊の海外派兵は当然のように論議され、ますます日本の帝国主義的性格が鮮明になってきました。

このもて、労働者と民衆の利益にたつたかうべき労働組合運動は長期にわたって停滞し労働組合の組織率は20%を割るという状況にまで陥っています。

おおくの人人は、こうした情勢を憂慮し、先進的な労働者は真剣な模索をはじめています。現代労働問題研究会は、こうした人々の問題意識や要望にこたえるため、2004年度はつぎのような活動を計画します。

1、各地域で「労働通信」の読者会、交流会、学習会など、会員同士で交流し、学習できる場を作ります

労働組合や進歩的な組織の力が低下し、労働者がばらばらにされているもて、労働者や地域の人々が交流したり、学習したり、本音で語り合ったりする場が少なくなっています。

そのため、各地域で、「労働通信」の読者会や、何らかのテーマを決めての交流会、学習会、研究会などをたちあげ、継続的に学習、交流、研究を進めていきます。

条件があれば、テーマ別の研究会や郵便などの産別の交流会をたちあげ、年間をつうじて活動を進めます。

2、「労働通信」を読者、会員とともに創っていきます

A、この間、世話人会で「労働通信」読者からの意見を集約したところ、「労働通信」のあり方として、つぎのような姿がもとめられていることがあきらかになってきました。

* 職場で実際に話題になっていることを情報源にして、労働者に問題提起していく

- * 読者の関心事のなかから、毎号、学習のテキストにできるような企画を一つ掲載する
- * 新たな労働運動の方向を意識的に追求する。とくに実際の運動の一線で活動している人の生の声、教訓を掲載するなかで、この方向を引き出すようにする。
- * 理想、夢、ロマン、ユーモアのある記事、企画を追究する
- * 活動家層だけではなく、一般の労働者が読めるような記事、中学生でも読めるような記事を毎号掲載するようにする
- * 現代資本主義の変化、新たな時代の労働運動の路線政策、社会主義などの理論問題も読者の問題意識とかかわりながら、きちんと提起していく
- * 読者のターゲットは、先進的活動家だけでなく、広範な労働者とくに青年労働者に置く

この方向を改めて、読者、会員みなさんに提案し、その実現のために、編集部を中心に、会員、読者の皆さんと一緒に「労働通信」を創っていきます。

- B、そのため、編集部、会員、読者の間の往復循環の運動、すなわち、投稿や取材、誌面への感想、要望の集中などを積極的に進めます。
- C、読者の拡大、読者同士の交流や取材などをつうじて、労働問題、労働運動について真摯に取り組む人々とのネットワークを広げていきます。

3、「変貌する現代資本主義とその歴史的運命」を中心に学習と普及をすすめます

- A、 「労働通信」編集委員会は、04年1月に『変貌する現代資本主義とその歴史的運命』（施鳳江主編、土肥民雄訳）を出版しました。その目的は、この本をたたき台として、現代資本主義を分析し、そのもとでの労働運動の路線・政策を発展させることにあります。
- B、 各地で現代資本主義の分析について学習会や研究会を開催します。そのための素材として、「労働通信」誌面で現代の日本資本主義を研究するための資料やデータを掲載していきます。
- C、 『レーニンと労働組合』（呂嘉民著、土肥民雄訳、2000年8月出版）の普及や学習もひきつづきおこないます。
- D、 知識人や労組活動家などにこれらの本を普及し、ネットワークを広げます。

4、「労働通信」ホームページを充実させ積極的に活用します

- A、 「労働通信」ホームページは、5万アクセスを超え、社会的な認知度も高まりつつあります。アクセス履歴から判断すると、「労働通信」ホームページにアクセスしているのは、大きくわけてつぎの2つの層とと思われます。

1)職場のリストラに悩む男女労働者、青年労働者： もっともアクセス数がおおいのが「職場と労働法相談コーナー」であることにあらわれている。

2)先進的な労組活動家、知識人：「労働組合の作り方」「レーニンと労働組合」「職場からのたたかい」「職場の実態レポート」「社会主義」「現代資本主義と労働問題」へのアクセス数が比較的高いことにあらわれている。

また、ホームページを開設することによって、広く社会的に情報発信ができるだけでなく、色々な情報が集まり、人々とのネットワークができることがわかってきました。

B、今後のホームページの位置づけとしては、広く情報発信し、とくに労働相談の面で社会的に貢献する、同時に情報をひろく収集し、いろいろな人々とのネットワークを作り、組織化につなげていくことを目標とします。

C、この目的を実現するため、比較的アクセス数がおおい、労働相談、レーニンと労働組合、職場からのたたかい、職場の実態(誌面との関係もある)など、「強いところ」をいっそう充実して、アクセス率をアップします。

また、当面の重点活動との関係では、「現代資本主義」のジャンルを充実させます。

その他、マンガコーナー、掲示板の強化などを検討します。

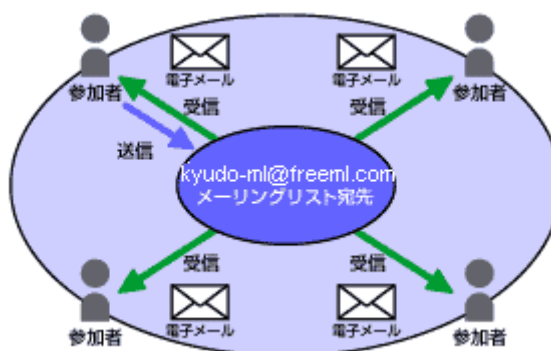
D、ホームページの運営、充実を組織的におこなうため、ホームページ運営委員会を設置します。

5、会員向けのメーリングリストを開設します

労働者同士で交流したいという要求があり、各地で、学習会、読者会、交流会の開催などを追求していきますが、交代勤務制の広がりなどで、物理的に労働者がなかなか一堂に集まれないという現実が生まれています。そのため、時間・空間などにとらわれず、しかも、相互信頼のもと一定の閉じられた空間で情報や意見の交換ができる仕組みとして、会員専用のメーリングリストを試験的に開設します。

インターネットやメーリングリストの慣れない会員、読者も多いので、これらの人々が入りやすい工夫をします。

メーリングリストとは、電子メールを使って大勢の人とコミュニケーションすることのできるシステムのことで、決まったメールアドレスにメールを送ると、参加しているメンバー全員に同じメールがコピーされて送られるしくみです。これを繰り返してメールを使った会話が進められていきます。



6、中国訪問スタディ・ツアーを企画します

「変貌する現代資本主義」の著者との交流や急激に動く中国の現実の参観を目的として、中国ツアーを2004年度中に企画し、会員有志で参加します。

その他、現代労働問題研究会の趣旨にそった形で、国内外でのスタディー・ツアーを企画します。

7、活動の集約として1年後に全国交流会を開催します

上記の活動や職場での運動の実践の総括・交流の場として、2005年4月に、現労研第2回総会を兼ねた第2回全国交流会を開催します。

8、世話人会を定期的に開催します

現労研の活動全体の推進、総括、会員の意見集約、その他、必要事項を協議するため、世話人会を年間に2～3回程度開催します。